# 2025年度　高等学校　重点目標

【最上位目標】…自律・尊重・共生

【学習】

①ICT機器・AI教材・放課後学習支援室（K-Lab）を活用し、個別に基礎知識の定着を図る。

②自学自習の習慣をつけ、主体的に学ぶ態度を養う。

③生徒一人ひとり目標を持ち、それに沿った学力の向上を目指す。（個別最適化）

④国際社会の一員として相互理解のため、語学力（韓国語・英語・日本語）の向上に努める。

【学校生活】

①基本的な生活習慣がつくように、自分自身で意識をする

②周囲に配慮しながら、規範意識をもって行動し、自己を含めみんなが安心して、楽しく過ごせる学校作りに取り組む。

③困り事や悩み事があれば、教員やスクールカウンセラーに相談するなどしながら、自己の課題の解決能力の向上に努める。

【授業内容の充実や環境整備】

①教員の資質向上を図る。

②ICT環境を整え、活用することで主体的・対話的で深い学びの授業実践を図る。

③公共物を大切にし、個々の努力によって全体が学習しやすい環境を作る。

④防災訓練を含む啓発活動を通じ、その意識を高めるとともに、地域連携も図り、安全な学校作りに取り組む。

【人権教育】

①HRや探究活動などを通じ、人にはそれぞれの背景があること理解し、人権について学習する。

②在日韓国人の歴史を知り、存在意義を考える。

③記念講話の歴史的事実から個々の人権から戦争と平和に至るまで、幅広く考える。

④多文化共生の意味を考え、クラス作りを通して互いを尊重する意識を養う。

建国高等学校
校長　金秀子

# 2025年度　建国高等学校　学校評価

1．本年度の取組内容及び自己評価
（評価指標A:とてもそう思う　B:そう思う　C:あまりそう思わない　D:全くそう思わない）

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標(%)<br>アンケート結果<br>A+B | 自己評価 |
|---|---|---|---|---|
| 1<br>自律・尊重・共生 | ・建学の精神と学校方針を周知し、学校の教育目標がより高次元で実現できるように協力体制を作る。 | （1）<br>・生徒集会や記念講話など通じ、学校の創立意義や教育目標を学んでいる。<br><br>（記念講話）<br>・3.1独立運動<br>・4.24阪神教育闘争<br>・5.31創立記念日<br>・6.25戦争<br>・8.15光復節<br>・11.3学生の日 | （1）<br>生徒　89<br>教員　84<br>保護者 86 | ■記念講話や生徒集会等を通じ、建学の精神の浸透を図った。今年度は高校生が主体となってプレゼンテーションを行うなど、生徒が教育目標を「自分事」として捉える工夫により、生徒（89%）、保護者（86%）、教員（84%）から高い評価を得た。今後は、民族学校としての矜持を保ちつつ多文化共生を推進し、新しい未来を創る生徒たちが平和な世界のために相互理解を深める機会をさらに創出することで、学校方針への理解と協力体制を高次元で実現していきたい。 |
| 2<br>学習 | ①ICT機器・AI教材・放課後学習支援室（K-Lab）を活用し、個別に基礎知識の定着を図る。<br><br>②自学自習の習慣をつけ、主体的に学ぶ態度を養う。<br><br>③生徒一人ひとり目標を持ち、それに沿った学力の向上を目指す。（個別最適化）<br><br>④国際社会の一員として相互理解のため、語学力（韓国語・英語・日本語）の向上に努める。 | （2）<br>・ICT機器・AI教材・放課後学習支援室(K-Lab)を活用し、基礎学力の定着を図っている。<br><br>（3）<br>・目標を持って自学自習の習慣をつけ、主体的に学ぶ態度を学ぶよう努めている。<br><br>（4）<br>・英検やTOPIKなどに挑戦し語学学習に努めている。 | （2）<br>生徒　85<br>教員　92<br>保護者 57<br><br>（3）<br>生徒　88<br>教員　84<br>保護者 66<br><br>（4）<br>生徒　94<br>教員　92<br>保護者 83 | ■ICT機器やAI教材、放課後学習支援室（K-Lab）の効果的な活用により、個別最適化された学びと基礎学力の定着が着実に進んでいる。特に各種検定（英検・TOPIK等）への挑戦を通じた語学力向上においては、生徒の94%、教員の92%が成果を実感しており、国際社会を見据えた高い学習意欲が伺える。<br><br>■自学自習の習慣化と主体的な学習態度についても、生徒・教員の8割以上が肯定的である。一方で、学習面（66%）や語学向上（57%）における保護者の評価は生徒・教員に比べ低い傾向にある。今後は、K-Lab等での具体的な学習成果や検定合格の実績をより積極的に家庭へ可視化し、学校・生徒・家庭が三位一体となって個々の目標達成を支える体制を強化していきたい。 |
| 3<br>学校生活 | ①基本的な生活習慣がつくように、自分自身で意識をする<br><br>②周囲に配慮しながら、規範意識をもって行動し、自己を含めみんなが安心して、楽しく過ごせる学校作りに取り組む。<br><br>③困り事や悩み事があれば、教員やスクールカウンセラーに相談するなどしながら、自己　の課題の解決能力の向上に努める。 | （5）<br>・基本的な生活習慣が身につくように努めている。<br><br>（6）<br>・規範意識をもって行動し、みんなが安心して、楽しく過ごせる学校作りに取り組んでいる。<br><br>（7）<br>・困ったときは担任の先生やスクールカウンセラーに相談することができる。 | （5）<br>生徒　94<br>教員　77<br>保護者 75<br><br>（6）<br>生徒　85<br>教員　85<br>保護者 83<br><br>（7）<br>生徒　87<br>教員　85<br>保護者 69 | ■基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上において、生徒の評価が高く（94%・85%）、安心・安全な学校作りに主体的に取り組めている。特に教員・保護者との三者間で「規範意識」への評価が80%台で一致しており、良好な集団形成がなされていると感じている。<br><br>■相談体制についても、生徒の87%が教員やカウンセラーを頼れると回答しており、心理的安全性は高い。一方で、保護者の評価（69%）が相対的に低いことから、学校内での相談窓口の周知や、個別の困り事に対する解決プロセスの共有をさらに強化し、家庭と連携した課題解決能力の育成に努めていきたい。 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 4<br>授業内容の充実や環境整備 | ①教員の資質向上を図る。<br><br>②ICT環境を整え、活用することで主体的・対話的で深い学びの授業実践を図る。<br><br>③公共物を大切にし、個々の努力によって全体が学習しやすい環境を作る。<br><br>④防災訓練を含む啓発活動を通じ、その意識を高めるとともに、地域連携も図り、安全な学校作りに取り組む。。 | （8）<br>・先生はグループ学習、ディスカッションなどを取り入れた授業を行なっている。<br><br>（9）<br>・ICT環境を整え、活用することで主体的・対話的で深い学びの授業実践を図っている。<br><br>（10）<br>・学用品や学校の設備をたいせつに使っている。<br><br>（11）<br>・防災訓練等を通じ、地域連携と、安全な学校作りに取り組んでいる。 | （8）<br>生徒　90<br>教員　85<br>保護者 76<br><br>（9）<br>生徒　87<br>教員　85<br>保護者 71<br><br>（10）<br>生徒　95<br>教員　84<br>保護者 89<br><br>（11）<br>生徒　89<br>教員　62<br>保護者 88 | ■ICT環境の整備と活用が進み、グループ学習やディスカッションを取り入れた「主体的・対話的で深い学び」の授業実践において、生徒の約9割が高い評価を示している。教員の資質向上への取り組みが、生徒の学習満足度に直結していると考える。また、生徒の防災意識も概ね良好である。<br><br>■一方で、防災・地域連携における教員の評価（62%）や、授業改善に対する保護者の理解（71～76%）に課題が残る。今後は、防災訓練の質的向上と地域連携の具体化を推進するとともに、ICTを活用した先進的な教育活動の成果を積極的に発信し、学校・家庭・地域が一体となった安全で質の高い教育環境の構築を目指していきたい。 |
| 5<br>人権教育 | ①HRや探究活動などを通じ、人にはそれぞれの背景があること理解し、人権について学習する。<br><br>②在日韓国人の歴史を知り、存在意義を考える<br><br>③記念講話の歴史的事実から個々の人権から戦争と平和に至るまで、幅広く考える。<br><br>④多文化共生の意味を考え、クラス作りを通して互いを尊重する意識を養う。 | （12）<br>・HRや探究活動を通じ、様々なルーツの人々を尊重するように心がけている。<br><br>（13）<br>・行事や授業などを通じて、在日韓国人の歴史などを知ることができる。<br><br>（14）<br>・記念講話等を通じ、戦争や平和、人権について考える機会がある<br><br>（15）<br>・クラス作りを通して、多文化共生の意味を考え互いを尊重しようとしている。 | （12）<br>生徒　94<br>教員　100<br>保護者 79<br><br>（13）<br>生徒　92<br>教員　77<br>保護者 85<br><br>（14）<br>生徒　93<br>教員　92<br>保護者 83<br><br>（15）<br>生徒　93<br>教員　100<br>保護者 80 | ■HR、探究活動、記念講話等の重層的な取り組みや、在日韓国人の歴史の学びを通して、人権や平和に対する理解が進んでいる。特に「多様なルーツの尊重」や「多文化共生」の意識については、生徒の9割以上、教員の100%が評価しており、互いを尊重し合うクラス作りに直結している。<br><br>■全体として生徒・教員・保護者の三者から高い評価（概ね80%～100%）を得ており、民族学校としてのアイデンティティ形成と、多様なルーツを認め合う環境、人権教育が高い次元で推進されている。今後は、これらの学びを教養に留めず、実社会における多文化共生の具現化に向けた自発的な行動力へと昇華させていきたい。 |

# 2025年度　建国高等学校学校評価アンケート

| | | 生徒 | 生徒 | | | | | | 教教員 | | | | | | 保護者 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 生徒 | A | B | C | D | A+B | C+D | A | B | C | D | A+B | C+D | A | B | C | D | A+B | C+D |
| 全般 | 1 | ・生徒集会や記念講話など通じ、学校の創立意義や教育目標を学んでいる。<br>・학생 집회와 기념 강연 등을 통해 학교의 창립 의의와 교육 목표를 배우고 있다. | 45 | 44 | 5 | 6 | 89 | 11 | 31 | 53 | 8 | 8 | 84 | 16 | 23 | 63 | 11 | 3 | 86 | 14 |
| 学習 | 2 | ・ICT機器・AI教材・放課後学習支援室(K-Lab)を活用し、基礎学力の定着を図っている。<br>・ICT 기기, AI 교재, 방과 후 학습 지원실(K-Lab)을 활용하여 기초 학력을 다지고 있다. | 41 | 44 | 10 | 5 | 85 | 15 | 31 | 61 | 8 | 0 | 92 | 8 | 14 | 43 | 34 | 9 | 57 | 43 |
| | 3 | ・目標を持って自学自習の習慣をつけ、主体的に学ぶ態度を学ぶよう努めている。<br>・목표를 가지고 자기주도적 학습 습관을 기르며, 주체적으로 학습하는 태도를 갖추도록 노력하고 있다. | 48 | 40 | 10 | 2 | 88 | 12 | 46 | 38 | 8 | 8 | 84 | 16 | 26 | 40 | 23 | 11 | 66 | 34 |
| | 4 | ・英検やTOPIKなどの挑戦し語学学習に努めている。<br>・영어검정시험(Eiken)이나 TOPIK 등에 도전하며 외국어 학습에 힘쓰고 있다. | 59 | 35 | 4 | 2 | 94 | 6 | 69 | 23 | 8 | 0 | 92 | 8 | 38 | 45 | 11 | 6 | 83 | 17 |
| 学校生活 | 5 | ・基本的な生活習慣が身につくように努めている。<br>・기본적인 생활 습관을 익히도록 노력하고 있다. | 57 | 37 | 4 | 2 | 94 | 6 | 23 | 54 | 15 | 8 | 77 | 23 | 9 | 66 | 20 | 5 | 75 | 25 |
| | 6 | ・規範意識をもって行動し、みんなが安心して、楽しく過ごせる学校作りに取り組んでいる。<br>・학생들은 규범 의식을 가지고 행동하며, 모두가 안심하고 즐겁게 지낼 수 있는 학교 만들기에 참여하고 있다. | 54 | 31 | 9 | 6 | 85 | 15 | 23 | 62 | 15 | 0 | 85 | 15 | 14 | 69 | 11 | 6 | 83 | 17 |
| | 7 | ・困ったときは担任の先生やスクールカウンセラーに相談することができる。<br>・어려움이 있을 때는 담임 선생님이나 학교 상담사와 상담할 수 있다. | 41 | 46 | 4 | 9 | 87 | 13 | 54 | 31 | 15 | 0 | 85 | 15 | 20 | 49 | 20 | 11 | 69 | 31 |
| 環境整備 | 8 | ・先生はグループ学習、ディスカッションなどを取り入れた授業を行なっている。<br>・선생님은 그룹 학습과 토론 활동이 포함된 수업을 진행하고 있다. | 51 | 39 | 6 | 4 | 90 | 10 | 31 | 54 | 15 | 0 | 85 | 15 | 18 | 58 | 15 | 9 | 76 | 24 |
| | 9 | ・ICT環境を整え、活用することで主体的・対話的で深い学びの授業実践を図っている。<br>・ICT 환경을 정비하고 활용함으로써 주체적·협력적이며 깊이 있는 학습을 실천하고 있다. | 44 | 43 | 10 | 3 | 87 | 13 | 54 | 31 | 15 | 0 | 85 | 15 | 24 | 47 | 18 | 11 | 71 | 29 |
| | 10 | ・学用品や学校の設備をたいせつに使っている。<br>・학용품이나 학교 시설을 소중히 사용하고 있다. | 72 | 23 | 1 | 4 | 95 | 5 | 31 | 53 | 8 | 8 | 84 | 16 | 29 | 60 | 6 | 5 | 89 | 11 |
| | 11 | ・防災訓練等を通じ、地域連携と、安全な学校作りに取り組んでいる。<br>・방재 훈련 등을 통해 지역 사회와 연계하며, 안전한 학교 만들기에 참여하고 있다. | 56 | 33 | 6 | 5 | 89 | 11 | 15 | 47 | 23 | 15 | 62 | 38 | 29 | 59 | 6 | 6 | 88 | 12 |
| 人権教育 | 12 | ・HRや探究活動を通じ、様々なルーツの人々を尊重するように心がけている。<br>・홈룸(HR)과 탐구 활동을 통해 다양한 배경을 가진 사람들을 존중하도록 노력하고 있다. | 57 | 37 | 2 | 4 | 94 | 6 | 61 | 39 | 0 | 0 | 100 | 0 | 29 | 50 | 12 | 9 | 79 | 21 |
| | 13 | ・行事や授業などを通じて、在日韓国人の歴史などを知ることができる。<br>・행사나 수업 등을 통해 재일 한국인의 역사 등을 배울 수 있다. | 61 | 31 | 1 | 7 | 92 | 8 | 46 | 31 | 23 | 0 | 77 | 23 | 31 | 54 | 9 | 6 | 85 | 15 |
| | 14 | ・記念講話等を通じ、戦争や平和、人権について考える機会がある。<br>・기념 강연 등을 통해 전쟁이나 평화, 인권에 대해 생각해 볼 기회가 있다. | 54 | 39 | 1 | 6 | 93 | 7 | 53 | 39 | 8 | 0 | 92 | 8 | 26 | 57 | 11 | 6 | 83 | 17 |
| | 15 | ・クラス作りを通して、多文化共生の意味を考え互いを尊重しようとしている。<br>・학급 활동을 통해 다문화 공생의 의미를 생각하며 서로를 존중하려 노력하고 있다. | 60 | 33 | 2 | 5 | 93 | 7 | 38 | 62 | 0 | 0 | 100 | 0 | 26 | 54 | 14 | 6 | 80 | 20 |

学校法人白頭学院
理事会・評議会 貴下

# 2025年度 学校関係者評価報告書

2026年3月28日

学校法人白頭学院
建国高等学校関係者評価委員会
金真理(PTA副会長)
李智蓮(PTA広報)

## 会議概要

・日時: 2026年3月28日
・場所:校内会議室
・学校関係者評価委員会(出席者6名)

学校関係者
松﨑隆行教頭先生
朴鏡淳教務部長先生

保護者関係
李奈奈(PTA会計)
康亜希子(PTA書記)
李智蓮(PTA広報)
金真理(PTA副会長)

## 学校関係者評価の主な議題

生徒・保護者のアンケートならびに教員による自己評価に対してその妥当性を評価し、改善案などの意見交換を実施

### 主な項目別評価及び協議内容

**【教育目標関連】**

(1)生徒集会や記念講話などを通じ、学校の創立意義や教育目標を学んでいる

生徒 → A+B 89%
教員 → A+B 84%
保護者 → A+B 86%

記念講話や生徒集会を通じて建学の精神の浸透が図られ、生徒が主体となり、プレゼンテーションが行われ、教育目標を自分事として捉えた取り組み、これらの活動を通じて生徒自身が学校の存在意義を理解し、民族学校としての矜持を保ちつつ、多

文化共生を推進し、生徒達が平和な世界のために相互理解を深める機会をさらに創出することで学校方針への理解と協力体制を高次元で実現していきたい。

会議においては、教育方針に対する理解度の差、保護者の認識や情報不足、高校は保護者の学校への関与が低い傾向(アンケート回答率、行事参加)にあり、多くの人に周知してもらうためには、学校方針に関する継続的な説明、保護者の行事参加、コミュニケーションが必要性を感じる。

## 【学習関連】

(2)ICT機器・AI教材・放課後学習支援室(K-Lab)を活用し、基礎学力の定着を図っている

生徒　→ A+B 85%
教員　→ A+B 92%
保護者 → A+B 57%

ICT機器やAI教材、放課後学習支援室(K-Lab)を活用した個別最適化学習環境が整備されており、時間や場所に制約されない学習支援体制が構築されている。また、オンライン教材や質問対応システムを通じて継続的な学習補完が可能となっている。各種検定にも対応、英検、TOPIKなど。
会議においては、利用すれば基礎学力の定着や試験対策に満足する生徒がいる一方で、環境は整っているが、クラブ生が利用しづらい、生徒達のモチベーションにつながる動機、意義付けが課題、高校から自主学習となるため、利用してない場合、大変もったいない状況にあり、学習成果がまだ表れにくい状況、今後は成果の可視化と具体的な情報提供を通じて、学校・生徒・家庭が連携した自立学習に向けて取り組みたい

(3)目標を持ち、自主学習の習慣を身に付け主体的に学ぶ態度を育成している

生徒　→ A+B　88%
教員　→ A+B 84%
保護者 → A+B 66%

自主学習の習慣および主体的な学習態度は一定程度形成されており、特に一部の生徒においてはICTを活用した自己主導型学習が実践されている。
会議では、試験直前に集中する学習傾向が依然として見られ、日常的な学習習慣の定着には
課題が残る。今後も継続的な学習習慣の確立に向けた指導体制の強化を願う。
(チャレンジテスト廃止に伴う学力強化案など)

(4)英検やTOPIKなどに挑戦し、語学力の向上を図っている

生徒　→ A+B 94%
教員　→ A+B 92%
保護者 → A+B 83%

各種語学検定への取り組みにより、語学能力の向上が顕著に見られ、本校の教育成果として高く評価される。国際社会に対応できる実践的な能力の育成が進んでいる。
会議においても安定した成果を示しているとの評価がなされ、今後、進路指導や大学進学と連携した活用の拡大などを期待する。

## 【学校生活】

(5)基本的な生活習慣の定着

生徒　→ A+B 94%
教員　→ A+B 77%
保護者 → A+B 75%

基本的生活習慣および自己管理能力は概ね良好な水準にあり、学校生活は安定して運営されている。
会議では、生徒・教員・保護者間で認識の差が存在することがあり、今後は情報共有とコミュニケーションの強化が求められる。

(6)規範意識の保持

生徒　→ A+B 85%
教員　→ A+B 85%
保護者 → A+B 83%

(7)相談体制

生徒　→ A+B 87%
教員　→ A+B 85%
保護者 → A+B 69%

相談体制として、生徒が教員やカウンセラーを頼ることができ相談できていると回答している
会議では、保護者としても子供達が信頼する先生方が本校に残って支援して頂くことを希望し、保護者の困り事の相談窓口やカウンセラーを1名増員できないか？相談体制の周知および家庭との連携や共有を願った

## 【授業および環境】

(8)グループ学習・ディスカッションの実施

生徒　→ A+B 90%
教員　→ A+B 85%
保護者 → A+B 76%

参加型・対話型授業が拡充され、生徒の主体的な学習参加が促進されている。
会議では概ね肯定的な評価が示されたが、保護者の理解不足についても課題として挙げられた今後の主体的、対話的、深い学びの授業に期待したい。

(9)ICTを活用した授業

生徒　→ A+B 87%
教員　→ A+B 85%
保護者 → A+B 71%

ICTを活用した授業は拡大、学習効率向上に寄与している
会議では生徒本人の活用の個人差や保護者の理解の不足、実質的な学習効果に結びつける運用の必要性を話し合った

(10)学習環境

生徒　→ A+B 95%
教員　→ A+B 84%
保護者 → A+B 89%

学習環境および施設は良好に整備されており、安定した学習基盤が確保されている。
会議では環境を十分に活用し利用率を上げて欲しいと願い、その方法を議論した。

(11)防災・安全教育

生徒　→ A+B 89%
教員　→ A+B 62%
保護者 → A+B 88%

防災教育は一定水準で実施されているが、教員評価が低い点が気になる。
形式的な訓練にとどまらず、地域とも連携し、実践的な対応能力の向上を図ることを願う。

## 【人権教育】

(12)人権理解

生徒　→ A+B 94%
教員　→ A+B 100%
保護者 → A+B 79%

人権教育は非常に高い水準で維持されており、学校の重要な教育方針として定着している。
会議においても継続的な強化が必要な分野として評価された。

(13)在日韓国人の歴史理解

生徒　→ A+B 92%
教員　→ A+B 77%
保護者 → A+B 85%

歴史教育は学校のアイデンティティ形成に重要な役割を果たしており、
生徒の理解も高い水準にある。
会議では知識習得にとどまらず、自己認識と結びつける教育の重要性を感じる

(14)平和教育

生徒　→ A+B 93%
教員　→ A+B 92%
保護者 → A+B 83%

平和教育は日頃から授業や課外授業等で積極的に実施されており、生徒の意識向上に寄与している。
現行の取り組みの維持、発展を期待する

(15)多文化共生

生徒　→ A+B 93%
教員　→ A+B 100%
保護者 → A+B 80%

多文化共生教育は高い水準で実施されており、多様な背景を持つ生徒が共存する環境が整備されている
会議では、留学生や国内外からの新しい生徒の増加に伴い、先生方の努力で様々な面で改善されてきているが、一方で教員への負担の増加、(言語習得をしながらの学習進度への不安、寮生の緊急時の対応、生活環境改善)等、保護者で協力できることはないのか？各々の母国を理解する意味でも、保護者、生徒交えての各国の食事作り交流会など出来ないか？と提案があった

## 【保護者参加者総評】

魅力ある学校へという共通認識の下、今回教頭先生、教務部長先生にはあらゆる質問に丁寧に答えて頂き、日頃生徒達の為に多くの先生方がご尽力頂いていること、そして学校運営に関わる全ての方にこの場を借りて感謝申し上げたい。
韓国系インターナショナルの学校という基軸を持ちつつも、多文化共生を目指した現在の学校の方向性が明確に理解できるよう、
これから保護者への情報の共有、コミニュケーションの場を多く作って頂くことを切に願い、生徒達が安心安全に通える学習環境作りに寄与し、微力ながら学校のサポーターとして努めていきたい。

## 【会議内容要約】

### アンケート結果について

2025年度のアンケート回答数は36件で、内訳は1年生47.2%、2年生27.8%、3年生25%であった。学校として様々な意見を踏まえながら対応を検討しているが、最終的な判断は各家庭に委ねられるため、今後も継続的に周知を行い理解の浸透を図っていく。また、日本語・韓国語での案内は継続して実施しており、中国語についても翻訳対応を進めているが、十分な対話には課題が残っている。近年は多国籍の保護者からの返信も増えつつあり、学校と保護者が相互に協力しながら進めていく姿勢を確認した。

### ICT教育について

ICT教育の環境整備は進んでいるが、生徒が主体的に活用するには時間と努力が必要であるとの説明があった。ICT導入の背景には、「人生100年時代」への対応や「個別最適化された学び」の実現がある。また、2025年には電子黒板（ワイード）の導入により、板書時間の短縮も期待されている。

### 学習支援について

毎日の学習習慣が十分に身についていない生徒への支援として、「K-Lab」を平日運営し、自律的な学習を促進している。利用率は月平均30%前後であり、さらなる向上を目指して方法を検討中である。クラブ活動を週1回休みにし、K-Lab利用を促すほか、「Manabo」などの学習ツールも導入している。K-Labでは大学生メンターや学習計画管理者が支援を行っており、希望者向けの保護者面談についても調整を進めている。

### 進路支援について

多くの生徒が活動実績や表現力を活かし、総合型選抜で進学している。進路決定後はアプリを活用し、小論文対策などを実施している。また、総合型選抜に対応するため、ポートフォリオ管理アプリも導入している。学校としては、日々の実力向上を重視した指導を継続していく方針である。

**評価制度について**

テスト制度の変更が生徒や保護者に不安を与えないよう、安定した運営を望む声があった。一方で、単元テスト制度については継続的に改善を加えていく方針が示された。また、チャレンジテストは本来の目的と現状に差が見られたため、教員アンケートを経て廃止が決定された。学力定着テストについては、生徒・保護者からの要望を受け継続実施となる。

**教育方針・多国籍対応について**

教科や教員によって指導方法や評価基準に違いはあるが、「生徒の主体的な学びを育てる」という大きな目標は共通している。また、多国籍化への不安に対しては、異文化理解を深める機会として捉え、人権教育や探究学習を通じて共生を目指しているとの説明があった。

留学生の定員に関して保護者は入学者数の20%と認識していたが、学校から募集人数の20%と初めて知らされた。また保護者への情報共有であるメールに関しても4ヶ国語対応は非常に見にくいとの意見が多く、2ヶ国語ずつでの対応をするなど工夫をして欲しい旨のお願いがあった

**その他の意見・提案**

カウンセラー体制については、心理相談サービス「LEBER」を導入し支援を補っている。また、多国籍保護者同士や教職員との交流の場づくりについても、言語面の課題を踏まえつつ検討を進めるとのことであった。さらに、中堅教員が継続して働ける環境整備や、学校からの連絡文の簡略化についても意見が出され、今後改善方法を模索していくとされた。

**最後に**

学校側から、「魅力ある学校づくりのため、今後も保護者と協力しながら取り組んでいきたい」との挨拶があった。